

第8回「アスマラ観察」

前回はアスマラの基礎インフラ事情について書きました。今回は、アスマラ生活をいくつかの異なる角度からみてみます。

1. 買い物

滞在が長くなると、当然ですが買い物する機会も増えます。エリトリアの首都アスマラには、野菜、果物やスパイスの市場はありますが、日本にあるようなスーパーマーケットはありません。その代わり、8 - 10畳くらいの広さの万屋が街のそこここにあります。ここでは飲料水、野菜、果物、洗濯バサミ、殺虫剤などなど、様々なものが売られています。ここで指摘したいのは、ほとんどの商品が輸入品であることです。日常生活で用いられるものは圧倒的に中国製品です(例えばトイレトペーパー、自転車のかぎ、台所用品、バケツなど)。また、文房具はほとんどがアラブ首長国連邦から、お菓子はエジプト、イエメン、イランから、掃除用のスプレーや殺虫剤はサウジアラビアなどから輸入されています。野菜や果物も中東などからの輸入品が少なくありません。これらの生活必需品は安価なのですが、その他の輸入品は関税によってけっこう高めです。例えばイタリアのワイン、チーズやパスタ、外国製シャンプーやお菓子などは日本での価格とほぼ変わりません。

2. ちょっと変なアスマラ

アスマラの人々にとって、バスは足代わりです。バスは、日本でも見かけるような大型のバスと、ライトバンくらいのミニバスの2種類があります。運賃はどこまで行っても1ナクファ(約5円)です。ほとんどの場合、バス、ミニバスとも大混雑で、皆われ先にとみ合いながら乗り込んでいます。このバスですが、ちょっと変なのです。運転手は時刻表どおりに運転することを優先するときがあって、乗客の少ない街の郊外で時刻を調整しています。ですから郊外では、バスが時刻表から遅れているときは、いくら手を挙げても止まってくれない時があります。

もうひとつ、ちょっと変なのは休日です。特にイスラム教の休日は月齢次第で、前日になるまで分からないということがこれまで2回ありました。皆休日予定日の前日に、ラジオやテレビで是非を知るので、従って、祝日の印がカレンダーによって異なります。人々が祝日の何ヶ月も前から予定を立てる日本とは、ちょっと違いますね。

3. 発想の転換?

エリトリア人が宗教の祝日などに食べる食事には、肉が欠かせません。ある祝日が近づいた頃、友人の一人が「日本にも新鮮な肉はあるのか?」と聞いてきました。新鮮な肉、日本ではスーパーに行けば簡単に手に入りますよね。でもエリトリア人の言う「新鮮な肉」って、本当に新鮮なのです。理由は食べるその日に肉が手に入るからです。というのも、特に宗教関連の祝日には、生きた羊、山羊、鶏などを市場で買ってきて肉にする(殺してさばく!)からです。これが、冷蔵庫が無くても新鮮な肉が食べら

れる理由です。

これまでではどちらかと言えば「場所」としてのアスマラを紹介してきました。次回からは「社会」としてのアスマラの様子をお伝えします。

(森下義亜)



最後の記念撮影